

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601894		
法人名	有限会社ハーティー		
事業所名	グループホームらくらく (1階)		
所在地	福岡県久留米市宮ノ陣町若松2348番地5		
自己評価作成日	令和6年12月28日	評価結果確定日	令和7年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻 4-2-1 関ビル1F	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和7年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「感謝と思いやりの精神を大切に地域の一員としての役割を果たしていきます」の理念を念頭に利用者様と関わらせて頂いています。また、利用者様だけではなく地域の高齢者の方とも関わりを持ち困りごとがあれば地域の方と一緒に解決したり、必要な所へつないだり支援しています。家庭的な雰囲気の中それぞれ出来ることは一緒に行っています。毎日入浴を行い清潔に努めています。ご家族も関わって頂き家族との関係が途切れない様支援しています。また、医療と連携し看取り介護を行っていますので最期をどこで過ごされたいかを見極め支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームらくらく」は平成16年4月に開設され、2ユニットのグループホームである。暖かい日は庭に出て山並みを見ながら外気浴、近隣の散歩コースの散策などを楽しんでいる。「やさしさ」と「ゆとり」につつまれた暮らしの中で、それぞれ出来ることは一緒に行っている。毎日入浴を行い活動性と清潔に努めている。旬の食材を取り入れ、彩の良い心配りされた献立が提供され、食事を楽しんでいる。散歩コースで地域の方と挨拶を交わしている。地域の祭りに参加したり、こどもみこしの訪問を楽しんだり、無形民俗文化財の御供納を見に行くなど、地域の一員として交流している。今後もその方らしく安心して暮らせ又地域とのつながりを築き、益々の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601894		
法人名	有限会社ハーティー		
事業所名	グループホームらくらく (2階)		
所在地	福岡県久留米市宮ノ陣町若松2348番地5		
自己評価作成日	令和6年12月28日	評価結果確定日	令和7年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1 関ビル1F	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和7年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「感謝と思いやりの精神を大切に地域の一員としての役割を果たしていきます」の理念を念頭に利用者様と関わらせて頂いています。また、利用者様だけではなく地域の高齢者の方とも関わりを持ち困りごとがあれば地域の方と一緒に解決したり、必要な所へつないだり支援しています。家庭的な雰囲気の中それぞれ出来ることは一緒に行っています。毎日入浴を行い清潔に努めています。ご家族も関わって頂き家族との関係が途切れない様支援しています。また、医療と連携し看取り介護を行っていますので最期をどこで過ごされたいかを見極め支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームらくらく」は平成16年4月に開設され、2ユニットのグループホームである。暖かい日は庭に出て山並みを見ながら外気浴、近隣の散歩コースの散歩などを楽しんでいる。「やさしさ」と「ゆとり」につつまれた暮らしの中で、それぞれ出来ることは一緒に行っている。毎日入浴を行い活動性と清潔に努めている。旬の食材を取り入れ、彩の良い心配りされた献立が提供され、食事を楽しんでいる。散歩コースで地域の方と挨拶を交わしている。地域の祭りに参加したり、こどもみこしの訪問を楽しんだり、無形民俗文化財の御供納を見に行くなど、地域の一員として交流している。今後もその方らしく安心して暮らせ又地域とのつながりを築き、益々の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感謝と思いやりの精神を大切に、地域の一員としての役割を果たします」を念頭に入居者様だけではなく地域で出来る事や困りごとの解決に取り組んでいる。	「感謝と思いやりの精神を大切に、地域の一員としての役割を果たします」の理念は法人全体の理念である。研修室と事務所内に掲示している。月1回の勉強会の時に全員で話しあい、理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事など参加させて頂いている。また、自治会長や民生委員と顔なじみの関係であり日頃より地域との交流はある。	地域の行事に参加し楽しんでいる。公民館でのカラオケに参加したり、「こどもみこし」の訪問時はアイスクリームをふるまい、一緒に楽しい時を過ごした。近隣の散歩コースで地域の方と挨拶を交わすなど、地域とのつながりを大事にしている。事業所内の行事案内は運営推進会議で報告する。キャラバンメイトとして「認知症のサポーター養成講座」を行っている。民生委員、包括支援センターから、一人住まいのお年寄りの相談があった。自治会長、民生委員と顔なじみの関係であり、いろいろな情報をいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の小中高生や住民に向けて認知症サポーター養成講座を開催したり民生委員より相談があった時など対応の提案を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの報告や利用者様の家族への対応等様々な事を助言して下さり、話し合いを行って実践につなげサービスが向上するよう取り組んでいる。	運営推進会議は行政の方、自治会長さんなど地域の方、家族の会代表、法人代表、管理者などの参加があり、事業所の状況・前回会議以降の行事・ヒヤリハット・研修内容などの報告を行う。外部評価の内容も伝える。そこでの意見、要望を話し合い、実践につなげ、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議の議事録を家族に送付し、事業所内の取り組みなどを、より深く知らせてみてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や困ったことがあったら尋ねている。	運営推進会議に行政の方が参加されており、事業所の状況を伝え、アドバイスなどをもらっている。介護保険の申請は電子申請を行っている。日頃から連絡を密に取り、事業者の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、困ったことがあったら尋ねており、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないと宣言しており、施設内の研修で繰り返し学んでいる。玄関の施錠は夜間のみで身体拘束をしないケアを徹底している。	身体拘束の禁止・虐待不適切ケアの理解の研修などを繰り返し学んでいる。玄関の施錠は夜間のみで、身体拘束をしないケアを徹底している。現在、離設はない。市の高齢者SOSネットワークなどを活用し、声かけ・見守りなどをしてもらえる関係を築いている。転倒予防のため畳に布団を敷いて休んでもらっている方もいる。	

R7.1 自己・外部評価表(グループホームらくらく)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で徹底的に学んでおり日頃より虐待防止に努めている。特に言葉遣いに注意しながら思いやりのある対応ができるようスタッフ間で声かけを行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会があり理解に努めている。また実際に利用されている利用者様もいる。パンフレットを持ち帰って頂ける様玄関先に用意している。	研修資料は管理者が作成し、実際に制度を利用されている方も1名おり、理解も深くできている。成年後見制度・日常生活自立支援事業のパンフレットは玄関に用意してある。制度利用の希望がある時は、窓口は管理者であり、行政などに相談する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約時には十分な時間を設けご本人様やご家族が納得されるよう分かりやすく説明している。改定時にも説明、同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日常会話から聞き取ったりご家族の方からは家族の会や面会時に伺ったり意見箱を設けていて外部の連絡先も提示している。	利用者、家族の意見、要望は、事業所訪問時又は電話などで聞き取っている。家族会もあり、その時にも話をうかがい、それらを運営に反映させている。毎月事業所便りを家族に送付し、利用者の状況を報告している。玄関には意見箱を設置している。	意見箱には投書がないとの事。毎月のお便りの中に一筆箋などを同封し、意見を出しやすくすることで、日頃あがりにくい意見を取り上げてみたかどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や日頃より意見を言える関係性を築いており必要に応じて対応している。	月1回開催される勉強会の時に、意見・要望・気になる事がある時は、その都度相談している。自分の年間目標を立てており、話をする機会もある。相談には、いつでも対応してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の努力や実績等代表者に報告をしている。一人一人の得意なことができる様努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の男女を雇用している。基本的には全員正職員で採用し安定した雇用形態をとっている。希望休にはなるべく応じて配慮している。	幅広い年齢層の男女が勤務している。職員は長く務めており、資格取得に対するバックアップもある。こどもがいる職員に対してはローテーションを考えてくれる。休み時間。休憩場所もある。折り紙が得意・料理が得意とそれぞれ得意な分野を生かし、生き生きとして勤務している。利用者の家族からも「笑顔が良い」と喜ばれており、社会参加や自己実現がされている。	

R7.1 自己・外部評価表(グループホームらくらく)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に対する研修会を行っている。	介護現場におけるハラスメント対策などの研修資料は管理者が作成している。研修後の報告は職員がそれぞれ行っている。ユーチューブの動画研修も行った。言葉遣いにも気が付いた時には、職員間でお互いに注意し、安心して穏やかに暮らせるように支援している。外部研修にも、今後行く予定にしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めての施設内研修を行っている。外部研修についても経験や必要に応じて参加させている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護児福祉サービス協議会に所属していてネットワーク作りや連携を図れる機会を設けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず事前の面談をおこない本人の生活状況やニーズ等入居前の情報を共有できるよう努めている。関わりを多く持ち安心できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にはまず見学して頂き、また事前に訪問したりしてご家族からお話を伺う機会を作り不安の解消に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まだ在宅での支援で対応できそうな場合や医療頻度が高い場合など提案を行いつながるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは極力ご自身でして頂いたり。利用者同士で助け合ったり、出来ない事はさりげなく介助し、職員も助けて頂いたりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の支援には積極的に家族の協力もお願いしており、家族の申し出に対しても可能な限り協力しながらご本人を支えてもらっている。		

R7.1 自己・外部評価表(グループホームらくらく)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に会ったり、ビデオ通話にて面会して頂いたり途切れないよう支援している。	友人の訪問がありお互いに健康を確認しあった。秋桜街道に行った時には、近くに住んでいた方がおり、近隣を回り道した。近辺の道を通った。今年のお正月は自宅に行かれた方はいなかった。家族の差し入れがありみんなで頂いた。これまで大切にしてきた馴染みの人や場所の関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の性格を把握し一緒に過ごせる環境を提供し利用者同士が支えられる場面にあまり口を出さずに見守りを行って支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族がケーキやパンを作って持って来て下さったり、必要な時には相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりから伺ったり家族に尋ねたりして把握に努めている。困難な場合は本人だったらどうしてほしいかを職員同士で検討している。	契約時には管理者が自宅、病院などを訪問する。本人、家族からこれまでの生活歴、馴染みの暮らし方、要望、不安な事など聞き取る。思いを表出する事が難しい方には表情、仕草などからくみ取り、本人本位の支援を職員で話し合う。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人からの聞き取りやご家族の協力も得て生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努め日々の介護に行かせるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前、状態変化があった時や定期的にアセスメントを行い、また日頃の関わりからも把握するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成担当者も介護と兼務していて、日々の生活状況やニーズの把握に努めて介護計画作成時にはご家族の意見や必要時には医療機関にも必要時には助言をお願いしている。	介護計画作成、見直しは、個別のケース記録、連絡ノート、医療ノートに随時必要な情報は記載しており、定期的もしくは状態変化時にカンファレンスを行い、課題、問題点を見つけ出す。目標の達成状況は、プランを基にしたモニタリングチェック表があり、ケアプランと実施記録は紐づいている。担当者会議では利用者、家族からの意向、要望を聞き取り、医師・看護師などの意見を反映しながら、現状に即した介護計画を作成している。	

R7.1 自己・外部評価表(グループホームらくらく)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、連絡ノート、医療ノートに随時必要な情報は記載している。記録活用とともに職員間での情報を交換しながら介護計画の作成、見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応できるよう取り組んでいる。例えば在宅復帰に向けて外出、外泊の支援や高齢者の相談窓口になれるよう行事に参加したりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や久留米市高齢者等SOSネットワーク等必要なものを活用しながら支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看取りを見据えて連携の病院を紹介させて頂いているがかかりつけ医の決定はご家族がしている。かかりつけ医とは密に連携させて頂いている。	入居時に利用者、家族と話し合い希望を聞き、かかりつけ医の決定をしている。かかりつけ医の受診は家族が行けない時は事業所に対応している。受診結果は家族に報告し職員間で情報共有をしている。訪問看護は24時間対応でき、指示を仰ぐことができる。週1回訪問し職員への指導も行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は24時間体制でいつでも相談や指示を仰ぐことができる。週1回は訪問し職員への指導も行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院が前提のもと主治医、ソーシャルワーカーや担当看護師、主治医と連携して支援している。病院の研修にも参加させて頂いている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できちんとしたことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期について話し合い、状態変化時の都度ご家族と方針を共有し主治医、訪問看護ご家族とともに支援に取り組んでいる。	今年度は4名様の看取りがあった。契約時に重度化や終末期について利用者、家族と話し合い希望を聞いている。看取りの指針はある。看護師の指導もあり、ターミナルケアに関し職員も理解をしている。看取り後の職員に対する心のケアについても、アンケートを取るなどを行っている。エンゼルケアも家族の希望により、職員が一緒に行っている。	

R7.1 自己・外部評価表(グループホームらくらく)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生法、AEDの研修も受けている。AEDも設置しており、マニュアルも掲示している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、運営推進会議でも協力をお願いしている。水害時の近所の避難所の場所もお願いしており、備蓄品もある。マニュアルもある。	年2回の避難訓練があり、運営推進会議でも協力をお願いしており、自治会長さんが参加してくれた。水害時の避難場所はコミュニティセンターになっている。消防署からの協力もあり、避難訓練にかかった時間を確認したり、水消火器の訓練を行った。備蓄品は水・缶詰・ご飯・うどん・お粥などがある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の持つ影響力や重要性に関して日頃から職員間で気を付けながら対応している。	トイレなどへの誘導時の声かけにも、相手の気持ちを尊重し声かけを行っている。利用者と信頼関係を築き、自己決定ができるように支援をしている。写真の同意も得ている。職員の守秘義務についても周知を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と利用者様が話せる時間が持てるよう気を付けている。信頼関係を築き、環境を整えてあらゆる場面で自己決定ができる様支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様と過ごし方を一緒に考え決定することを心掛けています。したいことが少しでもできる様支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の服装も一緒に選んでいただき支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める段階で食べたいものを伺ったり旬のものを取り入れたりしている。調理には関わっていないが下膳や片づけを手伝って頂いている。	栄養士が作成した献立を基に利用者の意見を聞き献立を選ぶ。三日に1回早出の職員が買い物に行く。旬の食材を取り入れ、手作りの彩の良い美味しい食事が提供されている。誕生日にはケーキの飾りつけを、利用者にしてもらう。菜園では春植えのじゃがいもと一緒に収穫し、食卓に添える予定で楽しみにしている。下膳や片づけなどできる事を手伝ってもらう。	

R7.1 自己・外部評価表(グループホームらくらく)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を提供している。食事摂取量や水分量を記録して把握し、その方に応じた支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力に応じた口腔ケアを支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を実施している。パターンを把握し失敗を減らす支援を行っている。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、個別のリズムをつかんでいる。情報は職員間で共有し、パッドの汚れの回数が減った。夜間も可能な限りトイレでの排尿を行うようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、食物繊維、適度な運動など予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴をして頂いている。入浴は楽しみ事にもなっていて喜んで下さっている。また、同性介助がいい方、異性介助がいい方等その方が快く入浴して頂ける様支援している。	利用者一人ひとりのその日の気分に配慮しながら、毎日の入浴を支援している。好みのボディソープ・シャンプーなどの使用もできる。入浴時に皮膚観察を行い、必要時には医師、看護師などの指示を仰ぐ。入浴は大事なコミュニケーションの場としてとらえている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を入居時に持って来て頂き状況に合わせて休息をとって頂いている。安眠の為に日中の活動量にも配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理、服薬指導はいこいの薬局がおこなっており、指導、分からない事は尋ねる事が出来る。医療ノートを活用し状態の変化はケース記録に記載している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握に努め粹割を持って生活できるよう支援している。気分転換に散歩に行ったり草をとったりしている。		

R7.1 自己・外部評価表(グループホームらくらく)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望され床屋など対応している。感染症で密になるところには難しいが対応できるよう検討し支援している。	車で秋桜街道に行った。近隣の散歩コースで季節の移ろいを楽しんでいる。天候の良い日には庭の草取りをする利用者もいる。本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は金庫で行っている。買い物に行った際には能力に応じてご自身で払って頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時には電話したりテレビ電話、年賀状など支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節が分かるような飾り物を貼り清潔感を保ち、温度や光など利用者様を見ながら不快にならない様に配慮している。	リビングには次亜塩素酸空気清浄器が置かれている。季節の移ろいがわかるように飾り物を壁に飾っている。午後の日差しが入りこみ、ゆっくりと時間が流れている。好みの音楽を楽しんだり、2月の豆まきの貼り絵を作成したりと、それぞれの時を過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの椅子、ソファ、畳の部屋でもくつろいでいただける。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より利用者が使い慣れたタンスや仏壇を持ち込んで頂き自分の部屋だと分かるような目印を持ちこんで頂いている。	タンス、籐のいすなど好みの家具などを持参している。夜間は畳の上に布団を敷いている方もいる。家族の写真を飾り、心安らぐ空間にしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮した環境づくりをおこなっていて、出来る事、分かることについては見守りを徹底している。		